

## ～子供達を取り巻く環境をよくするため何かできることはないだろうか～

### 「子どもたちのみらいのために今私たちができること」

2017年11月25日(土) 下関市社会福祉センター

講師：前田 亜樹 (Kananowa代表)

**Kananowa**とは、2012年に難病のため、35歳の若さで亡くなった＜荒木佳奈さんの輪＞ということから名



づけました。佳奈さんは、教師をされていて、闘病中に多くのメッセージを子どもたちや周りの人に残されました。それを、お母様の山本郁子さんが、『つたえたいことだま』1巻・2巻として、2016年に発刊されましたが、そのメッセージを形にして伝えたい、子どもたちの未来のために私たちが今できることをしたいという思いで、小さな活動から始めています。

『つたえたいことだま』1巻の16ページにこんなメッセージがあります。

“生活でなく人生” — 病気をして生活の質は落ちたかも知れないけど、人生に対する満足度は格段に上がった。病気で色々なものを失ったけど、本当に必要なもの、本当に欲しかった

日々がよく見えるようになったかも知れない。—

これに添えられたお母様の文、「病気などしなくても、人生をしっかり見つめて、ほんとうに大切なものに気づいてほしいという願いです」

学校で学習支援のボランティアをしています。色々なことに気づかされます。中学校で、まだ算数の掛け算が十分にできない子どもがいます。なぜだろう・・・どうしたらよいのか。発達障害という問題もあります。45分間、座ってられず、授業妨害をしてしまいます。常に3人のボランティアで共にお手伝いをしていますが、その場合、価値観から見るとではなく、ありのままの現状を見て協力しています。学校の現場で、先生方の助けをするには何をしたらよいのかと、いつも考えながら活動しています。そのような中で、たくさんの人が共感して協力して下さり、感謝しています。

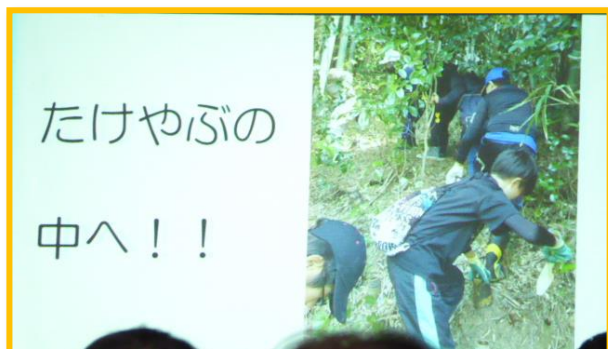
佳奈さんの作曲した「ジャンプ」という曲と共に、佳奈さんの生涯の映像を見て、その歩みにみんなで思いを熱くしました。

また、この1年余りの活動も、映像を通して、実際の様子を見ることができました。

特に「照子親(てらこや)」の活動には、感銘を受けました。



お勉強会や体験学習、スポーツ教室を通して、子どもたちへは“人は1人では生きていけない。人とつながることの温かさを感じてほしい”、大人には“生きていく上で本当に大切なことって何かを子どもと共に学ぼう”という趣旨で活動されています。



#### ○2017年の活動

- 4月：自然体験（山） タケノコ掘り体験（内日） ～タケノコを掘るってむずかしいネ～
- 5月：自然体験（海） 潮干狩り（長府才川） ～山ほどのアサリをゲット、泥まみれも嬉しい  
アサリパーティー アサリとタケノコで美味しい料理を地域の方といただきました。  
母の日特別企画 アレンジフラワー教室、お母さんへの手紙もかきました。
- 6月：スポーツ体験 吉見地区 綱引き祭り（吉見中学校）  
手作りパン教室（文洋中学校） バグダッドカフェのパン職人さんの協力  
父の日 レザー教室 お父さんに手作りキーケースをプレゼント  
芸術体験 レ・サンクコンサート（生涯学習プラザ） 佳奈さん作詞作曲の「ジャンプ」  
を歌いました。
- 7月24日～8月18日：夏休みお勉強会（文洋中学校）  
一か月以上の夏休み、家で過ごすには長すぎる、三食の用意もたいへん。  
この夏休み、まるで大きな家族のように一緒に過ごしました。食事は栄養満点。午前中  
は勉強をして、午後からは、習字・木工・囲碁など、体をいっぱい使いました。  
暑い中、多くの方の支えですばらしい夏を過ごせました。
- 8月：一日バス旅行（景清堂・秋吉台カルスト台地へ） 大自然を満喫できました。  
：宿泊学習（深坂自然公園） バーベキュー・沢登り・肝試し・星の観察  
：お掃除会（文洋中学校） お世話になった中学校に感謝をこめて。
- 9月：敬老の日イベント（フロイデ金比羅） お年寄りの方々との楽しい交流
- 10月：ハロウィン（桜山小学校～厳島神社～夢の里～minihanaカフェ～あおぞらディサー  
ビス～西武公民館～桜山神社～桜山公園） 地域交流体験ができました。

子どもたちの未来に望むこと、それは、幸せになってほしいことです。

子どもたちは、そこにいるだけでみんなを明るく元気にします。

先生達、また、親も本当に忙しくたいへんです。これからの課題はそのサポートができ  
たらと思っています。

活動は、すべて寄付から成り立っています。支援して下さる方に心から感謝しています。

（文責 中野直子）